

広 報

みなみふらの

4

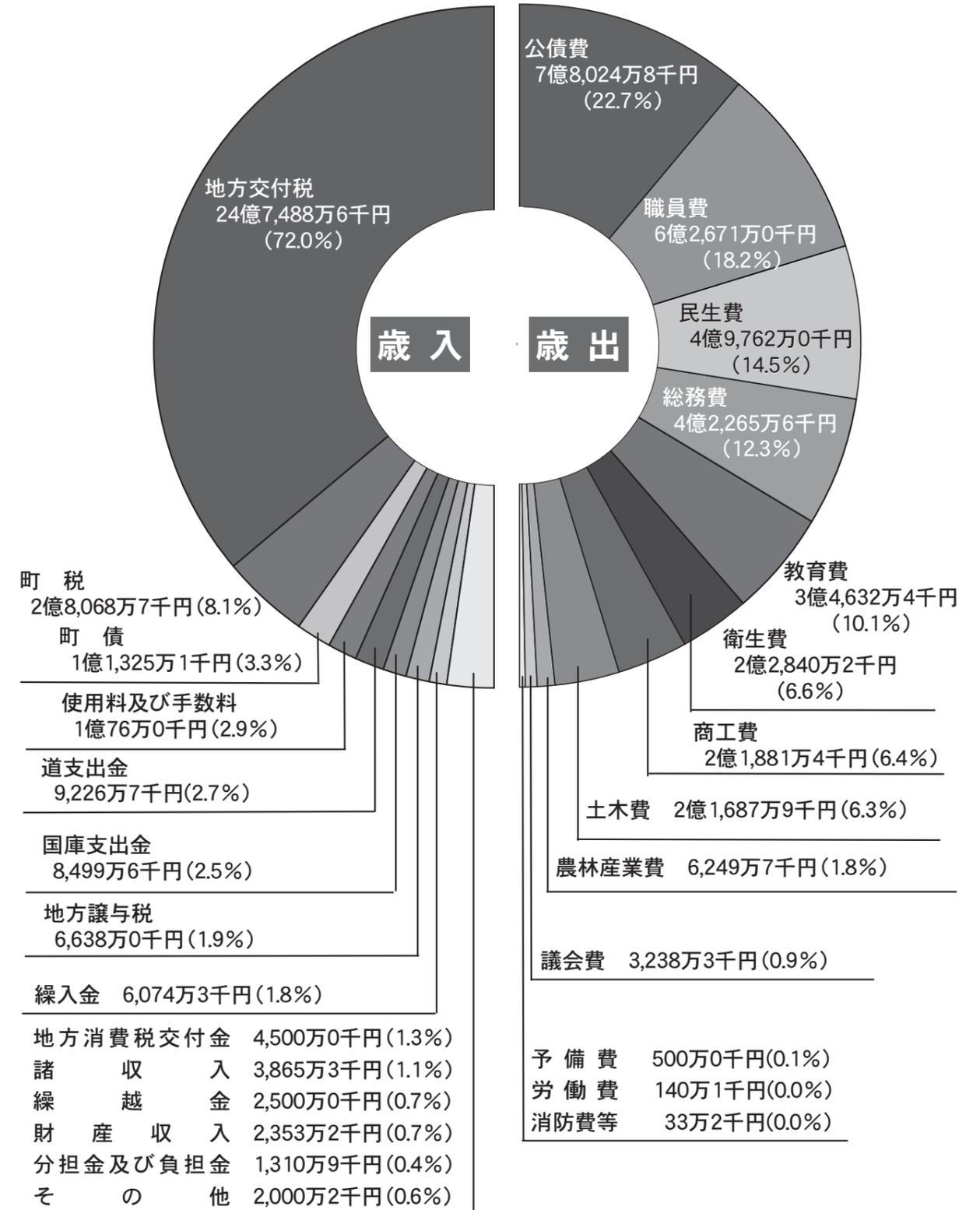
2020. APRIL No.769

- P 2～5 令和2年度予算
- P 6 まちの話題・出来事
- P 7 各学校卒業式
- P 8～9 イトウの保護区域指定
- P 10～15 幾寅開拓の父 「木田幸次郎」
- P 16 カメラレポート
- P 17 富良野広域連合議会
- P 18 教育委員会通信
- P 19 南富高新聞、学校だより
- P 20 ほのお
- P 21 子育て支援センター「ぷっこ」だより
- 保育所の元気な子どもたち
- P 22 地域貢献活動、寄附・寄贈

南富良野小学校卒業式（3月19日）

令和2年度 予算のあらまし

一般会計予算額 34億3,926万6千円



今年度のまちづくり予算の概要

令和2年度の一般会計予算額は34億3,926万6千円（前年度より4億5,608万4千円（11.7%）の減少）、5特別会計の合計は9億5,773万1千円（前年度より325万3千円（0.3%）の減少）となり、総額では前年度より4億5,933万7千円（9.5%）減少の43億9,699万7千円となりました。

一般会計が大幅に減少した理由は、町の借金である地方債の償還金を含む公債費が減少したことや、町長改選期にあたる年度のため、政策的な予算を盛り込んでいない骨格予算編成となっていることによるものです。

特別会計においては、後期高齢者医療事業が納付金の増加、介護保険事業では給付費、地域支援事業費の増加、公共下水道事業では昨年度に引き続き実施される南富良野町浄化センター他更新工事委託事業の実施により増加となる一方、国民健康保険事業での給付費の減少、簡易水道事業での配水管布設替事業の減少などにより、前年度を下回る予算規模となっています。

会計名	予算額	前年度からの増減額	増減率
一般会計	34億3,926万6千円	△45,608万4千円	△11.7%
特別会計	9億5,773万1千円	△325万3千円	△0.3%
国民健康保険事業特別会計	2億8,111万2千円	△1,637万2千円	△5.5%
後期高齢者医療事業特別会計	4,286万0千円	500万3千円	13.2%
介護保険特別会計	2億9,810万9千円	901万0千円	3.1%
簡易水道事業特別会計	1億4,621万9千円	△2,474万2千円	△14.5%
公共下水道事業特別会計	1億8,943万1千円	2,384万8千円	14.4%
全会計の総額	43億9,699万7千円	△4億5,933万7千円	△9.5%

基金に依存しない行財政運営を目指して

税収の占める割合が低く、地方交付税に大きく依存している本町の財政事情は、国の動向により左右され近年は基金を取り崩す財政運営となっています。

今後も健全な財政運営を図るべく、各種事業制度の情報収集に努め、国や道からの補助金等の財源確保、経常経費の削減、事務事業の見直しを行い、基金に依存しない財政運営を目指します。

令和2年度から変更になる主な事業について

次の事業については、令和2年度から助成内容等の見直しが行われますのでお知らせします。

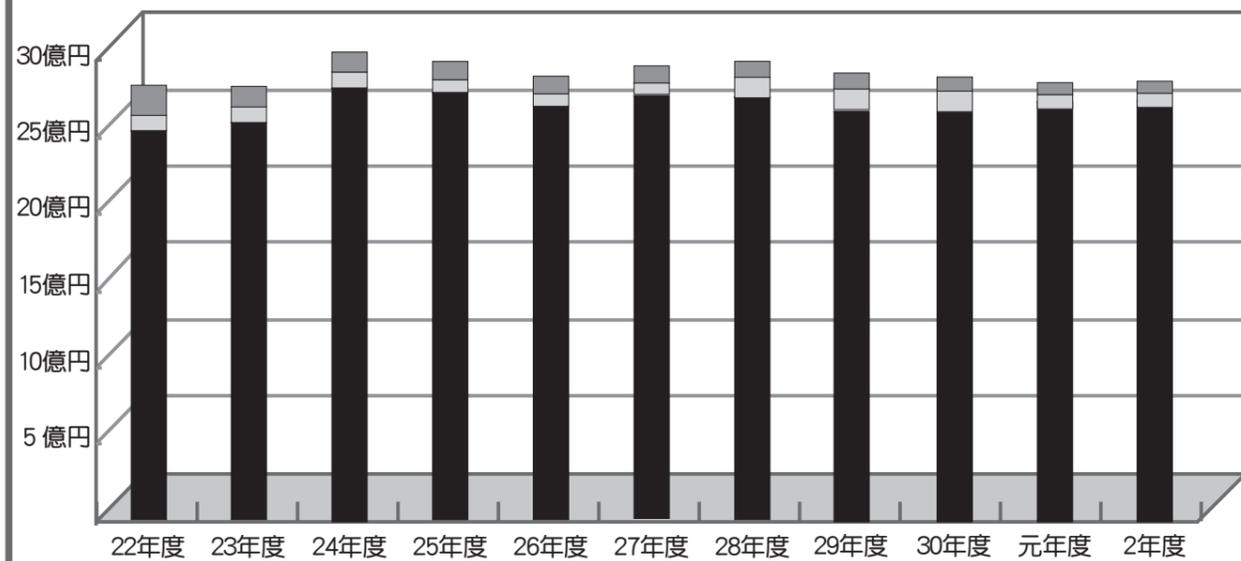
事業名	変更前	変更後
インフルエンザ予防接種料金助成金	無料	65歳以上 非課税世帯：無料（変更なし） 課税世帯：自己負担1,300円（1回当たり）
新生児聴覚検査費用助成金	自己負担	国の制度に基づき、初回検査費用の一部助成 助成額：6,600円
療育支援交通費助成金	全世帯助成	助成対象者を非課税世帯に変更
保育所給食費	無料	令和2年5月より給食費用の一部負担 3歳以上児1人 2,500円/1ヶ月当たり 非課税世帯等は無償 3歳未満児については、保育料に含む
地域雇用確保事業助成金		令和元年度で事業終了 【令和元年度までに認定された事業所は除く】

地方交付税の推移

歳入予算の7割を占める地方交付税は、全国画一の算定方法で算出される「普通交付税」と各市町村の特殊事情や災害発生などにより算定される「特別交付税」とに区分して交付されています。併せて、普通交付税の代替措置として発行することができる「臨時財政対策債」を借入れて財源を確保しています。

これら地方交付税のうち普通交付税については、リーマンショック後の景気対策など算定基準の見直しによる段階的な削減が終了し、本年度においても、歳出特別枠の創設や、保育の無償化による増加が見込まれる一方、平成28年の災害発生後に増額されていた特別交付税が削減となり、町の厳しい財政運営に変わりはありません。

地方交付税と臨時財政対策債の推移

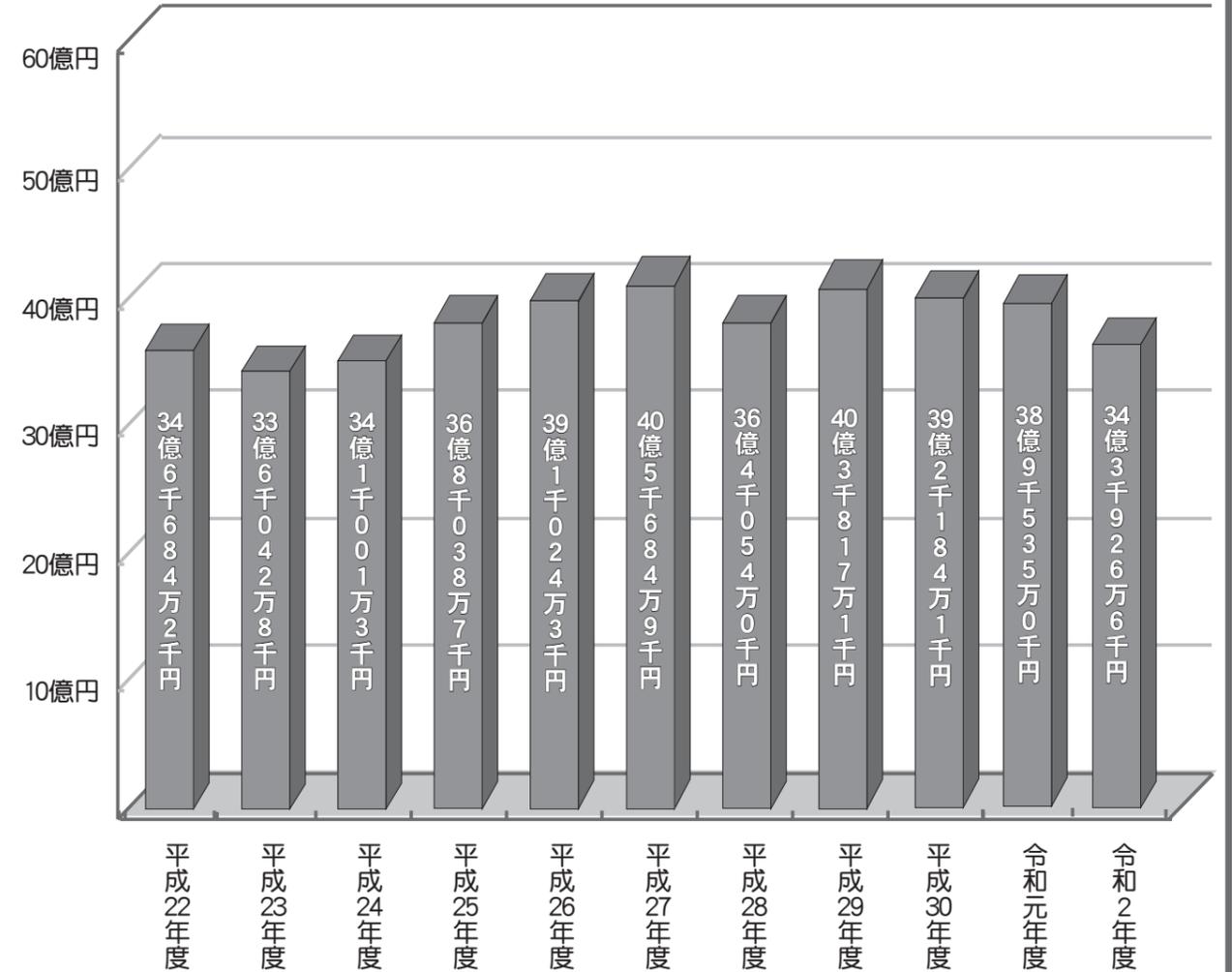


(単位：千円)

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
普通交付税	2,169,019	2,243,837	2,504,282	2,498,947	2,327,714	2,464,878	2,413,285	2,280,884	2,283,387	2,346,415	2,357,886
特別交付税	124,802	127,499	129,506	129,073	138,752	132,079	244,846	238,348	230,502	117,000	117,000
臨時財政対策債	246,972	168,402	160,876	150,931	140,238	142,154	105,506	102,435	100,242	75,475	69,151
計	2,540,793	2,539,738	2,794,664	2,778,951	2,606,704	2,739,111	2,763,637	2,621,667	2,614,131	2,538,890	2,544,037

(注) 平成元年度までは実績額(ただし、元年度の特別交付税は決算見込み額)2年度は予算額

年度別予算規模の推移(一般会計の当初予算額)

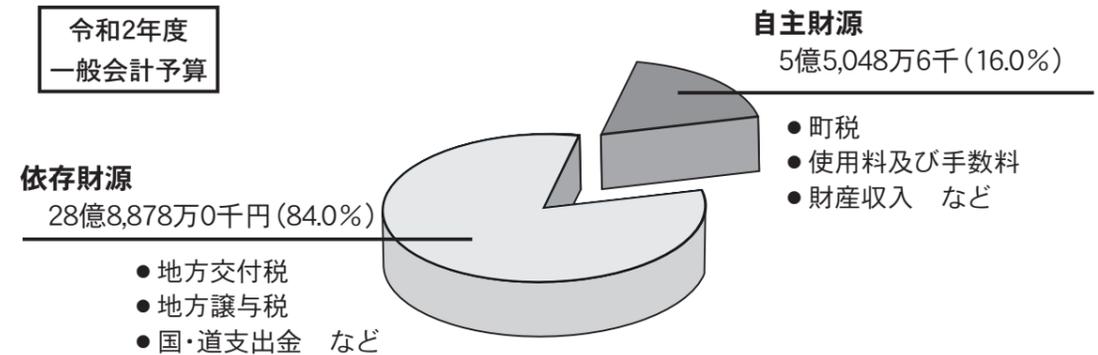


依存型の財源構造

歳入のうち、町税や使用料・手数料などの自主財源の割合が低く、地方交付税や補助金など国や道から交付される財源に大きく依存しています。

このため、国や道の財政事情や制度改正などにより、町の財政運営が大きく影響を受けることになります。

令和2年度は地方交付税の増額を見込んでいますが、基金を取り崩しての予算編成となります。



新型コロナウイルス感染症による影響

日本をはじめ世界各国で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、北海道では他都府県と比べ多数の感染者が確認され、道内のほぼ全域で発生しています。

指定感染症に定められた新型コロナウイルスは、2月21日に上川管内でも感染者が確認されたことにより、本町では感染症の蔓延を防ぐよう迅速かつ適切な対応を図るため、同日新型コロナウイルス感染症対策本部を設置しました。



対策本部は3月末まで6回行われ、国で示された「基本方針」に基づき、対応・予防方法の周知の徹底や、各公共施設の休館や消毒強化、イベントや会議の延期や中止、北海道教育委員会からの要請を受け、町内各小中学校および高等学校の休校の措置などが行われてきました。

北海道では、現在、医療崩壊を起こすような急激な患者の増加はなく、検査体制や病床の確保など体制を整えることができたとし、新型コロナウイルスの感染の拡大を防止しながら、社会経済活動を行う新たなステージへ移行しましたが、感染症の終息については、まだ先の見えない状況です。町では、今後も国や北海道の新しい情報や対応など、随時、広報誌やホームページなどにより、お知らせします。

南富良野まちづくり観光協会「アドベンチャートラベル」研修会



南富良野まちづくり観光協会は、体験型観光を中心とするアドベンチャートラベル（AT）の国際サミットが、来年秋に道内での開催が内定したことに伴い、町内の観光関係者を対象に研修会を開催しました。

ATとは、カヌーやスキー、ラフティングといったアクティビティ、自然、異文化体験の3つの要素のうち2つ以上を組み合わせた旅行スタイルで、このサミットには約60カ国から800人ほどのAT関係者が参加し道内各地で参加者を対象にした体験型ツアーも行われる予定で、誘致先になると町に訪れる外国人客の増加が見込まれます。

研修会は2月15日（土）に、一般社団法人北海道開発技術センターより佐賀彩美さんを講師に招き、ATとアウトドアの違いや、ATはより難易度が高い体験を求めリスクを伴う問題点があるなどの説明を受けました。また、2月18日（火）には、札幌で英会話教室を行っているカナダ出身のグレッグ・ブリューイエルさんを講師に招き、実践的研修として緊急時に外国人客にどう対応するか、参加者は二人一組になり、負傷者役と救助役に分かれ、体調やけがの状態を確認するための簡単な英会話の練習などを行いました。

参加したアウトドア業者の方は「北海道でサミットが開催されれば、外国人客がどんどん増える。様々な情報を取り入れたこの様な研修は必要だ」と話されていました。



学び舎を築立つ各学校で卒業式

南富良野高等学校 第68回卒業証書授与式 卒業生17名（3月2日）



南富良野中学校 第15回卒業証書授与式 卒業生21名（3月13日）



南富良野小学校 第6回卒業証書授与式 卒業生12名（3月19日）



南富良野西小学校 第4回卒業証書授与式 卒業生2名（3月19日）



3月に入り、南富良野高等学校および町内各小中学校で卒業式が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各学校では出席者を卒業生と卒業生の保護者および教職員のみでの卒業式となりましたが、町内の児童・生徒52名は校長先生から卒業証書が授与され、たくさんの思い出を胸に学び舎を後にしました。

今年もイトウの保護区域が指定されました 町民や遊魚を楽しむ皆様の手で大切な資源「イトウ」を次代に残しましょう！！

「南富良野町イトウ保護管理条例」に基づき、南富良野町イトウ保護管理審議会（江戸 謙頭 委員長）が2月21日に開催され、イトウ保護区の指定などについて審議を行い、池部町長に意見書が提出されました。

町では、審議会の意見を踏まえて、採捕自粛を求めるイトウ保護区の設定について決定し、3月27日に告示しましたので、その内容についてお知らせします。

1. イトウの産卵期における保護区の指定

- ・保護の目的：イトウの産卵期による、イトウの保護管理を図る種の保存対策として産卵保護区を設定し採捕（※1）の自粛をお願いいたします。
- ・自粛の区域：南富良野町字落合の北落合橋より上流の空知川水系全域 【別図①の産卵保護区】
- ・自粛の期間：令和2年4月15日から令和2年6月15日まで
- ・自粛の対象種：全ての魚類

2. 越冬期間における越冬保護区の指定

- ・保護の目的：越冬期間における、イトウ個体の保護管理を図る種の保存対策として越冬保護区を設定し採捕（※1）の自粛をお願いいたします。
- ・自粛の区域：かなやま湖全域（但し、生息保護区の区域を除く）【別図②の越冬保護区】
- ・自粛の期間：令和2年12月15日から令和3年1月31日まで
- ・自粛の対象種：イトウ

3. 周年における生息保護区の指定

- ・保護の目的：イトウ個体の生息を周年で保護することおよび釣り場の安全を確保することを目的として生息保護区を設定し採捕（※1）の自粛をお願いいたします。
- ・自粛の区域：かなやま湖上を横断する、JR金山湖橋梁より上流直線距離で左岸50メートルの地点から右岸50メートルの地点を結んだ線から金山ダム堰堤に至る間で囲まれた区域。【別図③の生息保護区】
- ・自粛の期間：令和2年4月15日から周年
- ・自粛の対象種：全ての魚類

（※1）採捕とは、水生動物の生きている個体の捕獲および水生動物の生きている卵の採取をいいます。

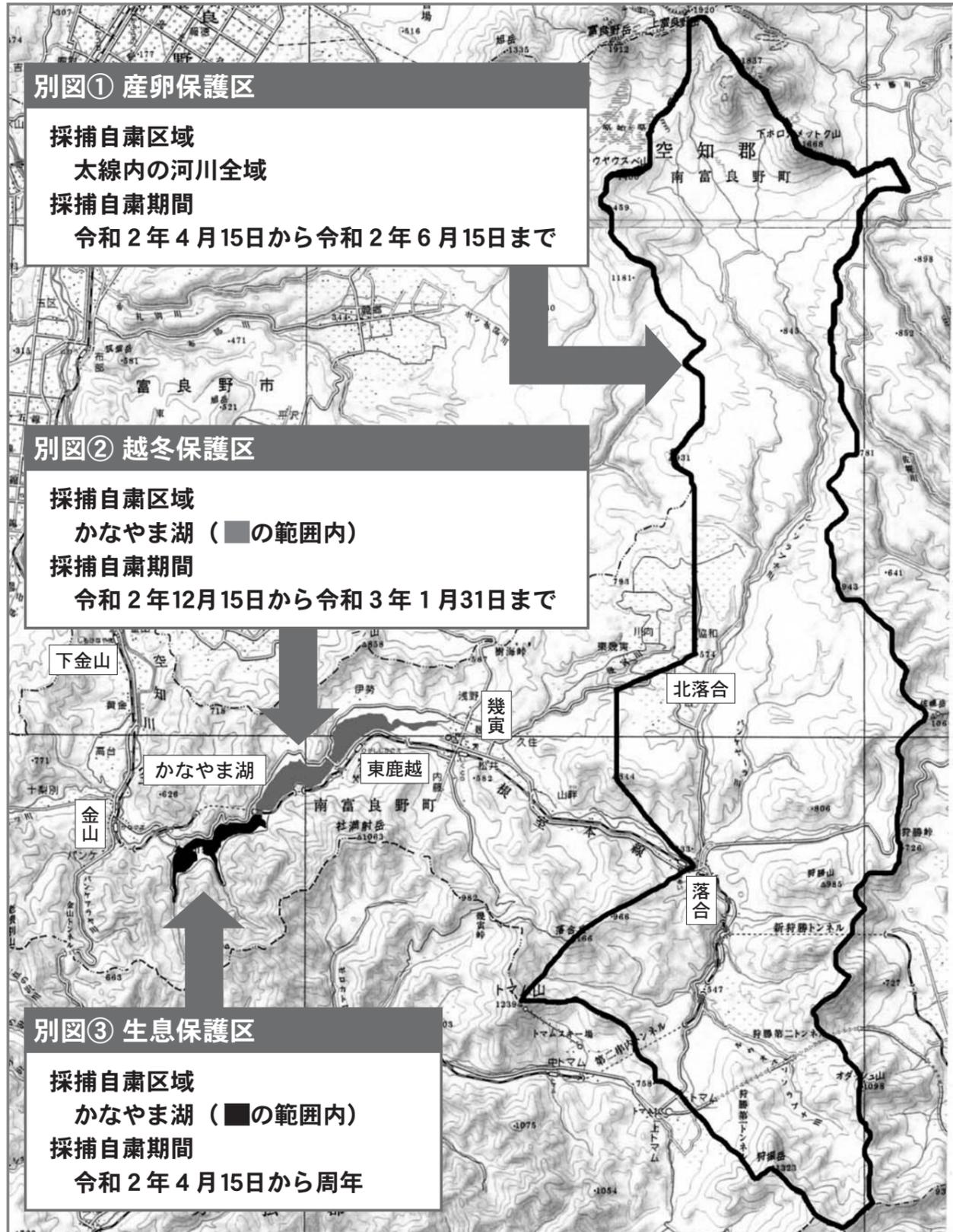
4. 特定移入動物の指定

- ・自粛要請する特定移入動物：
イトウの資源を保護することを目的として、次の魚類を特定移入動物として指定しますので、下記の区域へ放つことの自粛をお願いいたします。
ニジマス、サクラマス（ヤマベ）、サツキマス（アマゴ）、イトウ（南富良野地域以外から持ち込まれたイトウ）
※上記の水生動物は卵を含み、生きているものに限る。
- ・自粛要請する期間：令和2年4月15日から周年
- ・自粛要請する区域：金山ダムより上流のかなやま湖および町内空知川水系全域（全ての支流・分流を含む）

※ 以下の生物は移植放流が禁止されています。

- ① 北海道内水面漁業調整規則による
ブラウントラウト・カムルチー（雷魚）・カワマス
- ② 外来生物法
ウチダザリガニ・ブルーギル・オオクチバス・コクチバスなど

本町の大切な資源「イトウ」を次代に繋ぐため、皆様のご協力をお願いします。



別図① 産卵保護区

採捕自粛区域
太線内の河川全域
採捕自粛期間
令和2年4月15日から令和2年6月15日まで

別図② 越冬保護区

採捕自粛区域
かなやま湖（■の範囲内）
採捕自粛期間
令和2年12月15日から令和3年1月31日まで

別図③ 生息保護区

採捕自粛区域
かなやま湖（■の範囲内）
採捕自粛期間
令和2年4月15日から周年

「南富良野町イトウ保護管理条例」に関する問い合わせ先

南富良野町教育委員会生涯学習係 電話：0167-52-2145 FAX：0167-52-3079
Email：kyoisyougai@town.minamifurano.hokkaido.jp ※イトウ保護管理に関する事項は、町ホームページにも随時掲載し、お知らせします。http://www.town.minamifurano.hokkaido.jp

町開基130年

幾寅開拓の父「木田幸次郎」

農業開発のため、郷土の森林を犠牲にできない
広大な別天地 北海道南富良野 への集団移民を決意 (敬称略)

砂金採取者が日高山脈を越えて金山に入り、茅屋を建て移り住んだのが明治24年、この年より数えて平成2年が本町の開基100年目、令和2年は開基130年となりました。

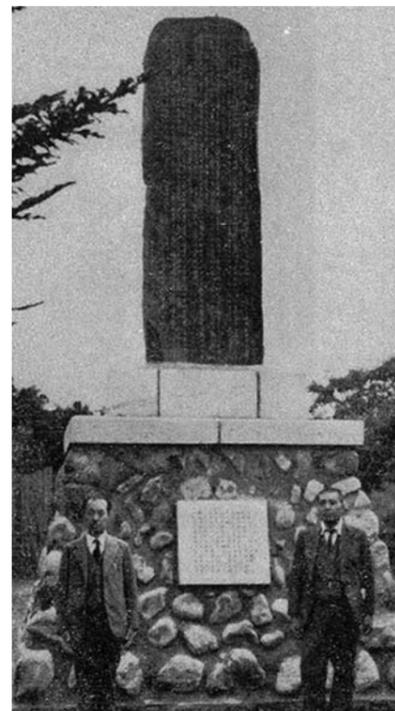
開基元年である明治24年から10年後の明治34年4月19日には、三重県茅江村(現在の松阪市)から木田幸次郎を団体長とする伊勢団体が、現在の南富良野町字幾寅伊勢地区に入植しました。

入植後は、開拓に励み、最も大きな実績としては産業組合の創設があり、村の偉人として挙村一致で、入植から50年目の昭和25年に、南富良野村役場前に「木田幸次郎翁頌徳碑」が建立されました。

また、昭和33年には「開村50周年・役場庁舎新築落成記念」に伴う各種行事が行われ、その一つとして村報特集号が発行され、木田幸次郎の紹介がされました。令和2年は、木田幸次郎が入植した年から数えて120年・石碑建立70年目となりました。そこで、今から62年前の昭和33年に発行された村報と、昭和44年に発刊された「富良野地方史」に記述されている幸次郎の関連部分を紹介します。



伊勢開拓中心地(角谷弁次郎宅で木田幸次郎が入地したのもこの付近 金山ダム建設により水没)



木田幸次郎翁頌徳碑(昭和25年撮影 左は、幸次郎の長男 茂生)



大正2年 鹿越駅

富良野地方史 より

○木田幸次郎

幾寅開拓の父 これは同時に南富良野町の開発を代表する人物と言つてよい。記念碑は二つあって、一つは出身地の三重県に大正14年に建立され、北海道移住までの功績が碑文になっている。もう一つは昭和25年に南富良野町役場前に建立されている。

南富良野町幾寅市街地の西北には、満々と水をたたえた金山ダムがある。このダムの幾寅に接続する湖底に南富良野町開拓の礎となった伊勢団体が

眠っている。

この団体を率いて入地した木田幸次郎は、安政元年6月21日三重県飯南郡茅江村字茅原(現在の松阪市)において生まれた。

県立農学校を卒業し農業を指導し、森林を撫育して茅江江村の財政を確立、明治34年3月伊勢団体を率いて北海道に渡った。

団体が幾寅についたのは、明治34年4月19日、40戸の希望者もかなり脱落し開拓は容易でなかった。

伊勢団体は、いわゆる団体であるから土地面積所有が出来ない。皆それぞれの土地所有者になった。

団体長木田幸次郎は、富良野地方のバイオニアの中でも最も精神的な深さを持っていた一人だろう。

明治38年から大正に至る11年間の日記が残っているが、その根気よさは驚くばかりである。一日一行で月日、天気、それに記事

は2字から10字くらいまでの簡潔な書き方である。

日記は俳諧歳時記を見ているようであり、明治39年8月2日採種を取り入れ、8日に花菖蒲を植替、9月21日菊の蕾を見、10月4日に初雪が降った。11月3日から吹雪が10日も続いた。明治41年6月4日初めてリンゴの花が咲いた。同43年6月2日にもリンゴの花が咲き、9月8日には紅魁が上熟した。同44年9月8日にも収穫をしている。

翁はこれを近所の子どもにわかち与えて楽しんでいるが、大正3年には紅魁20箱と記され、8月15日(盆)には子どもリンゴ会を催している。

漢方医術に長じ、草根木皮に親しみ、付近の人々に親しまれたこの人 木田幸次郎は、富良野地方の精神文化の上からも忘れてならない人と思う。

明治39年の年賀状が2、130枚だったことも、この人の一面を物語っている。

明治38年から大正4年まで毎日記録した日記



明治38年(1905年)5月の日記

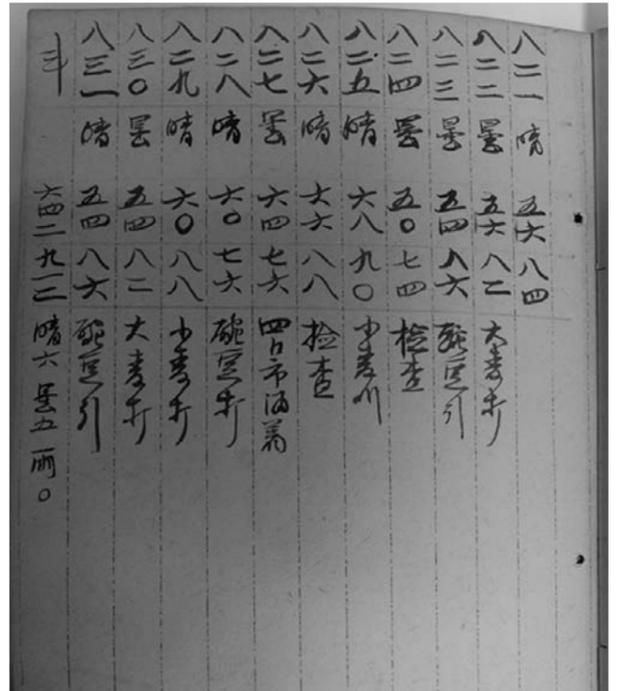
最低温度	最高温度	天気	記
五二(曇)	四四	五八	黒大豆時き 稲種時き
五二(晴)	三三	五八	
五二(雨)	四八	六〇	好雨
五二(雨)	三三	六四	水張る
五二(曇)	四二	五八	瓜類皆時<
五二(曇)	四二	五八	氷張る
五二(曇)	四四	六八	種耕作 桜初花
五二(雨)	四八	五八	対馬大海戦
五二(雨)	五〇	六〇	坂口死亡
五二(晴)	五〇	七四	坂口葬式
五三(晴)	四六	八〇	菜豆時き
五三(晴)	四八	八四	肥時き蜀黍

拡大

月日	天気	最低温度(華氏F)	最高温度(華氏F)	最低温度(摂氏C)	最高温度(摂氏C)	記
31日	晴	48	84	8.9	28.9	肥時き蜀黍
30日	晴	46	80	7.8	26.7	菜豆時き
29日	晴	50	74	10.0	23.3	坂口葬式
28日	雨	50	60	10.0	15.6	坂口死亡
27日	雨	48	56	8.9	13.3	対馬大海戦
26日	晴	44	68	6.7	20.0	種耕作 桜初花
25日	曇	42	58	5.6	14.4	瓜類皆時<
24日	晴・霜	32	64	0.0	17.8	氷張る
23日	雨	48	60	8.9	15.6	好雨
22日	晴・霜	32	58	0.0	14.4	
21日	曇	44	58	6.7	14.4	黒大豆時き 稲種時き

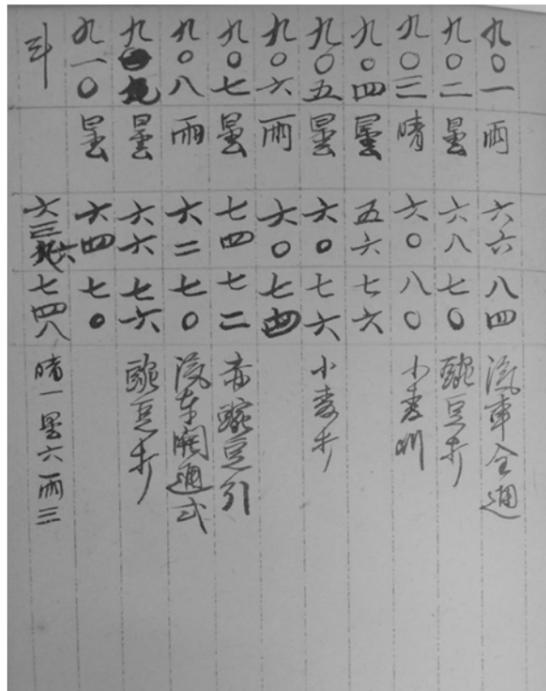
※毎日の気温は、華氏温度で記されていたため、摂氏温度に換算し、表にまとめました。

明治39年(1906年)8月の日記



(8月)日	天気	最低温度(華氏F)	最高温度(華氏F)	最低温度(摂氏C)	最高温度(摂氏C)	記
31日	晴	54	86	12.2	30.0	豌豆打
30日	曇	54	82	12.2	27.8	大麦打
29日	晴	60	88	15.6	31.1	小麦打
28日	晴	60	76	15.6	24.4	豌豆打
27日	曇	64	76	17.8	24.4	四日市酒着
26日	晴	66	88	18.9	31.1	検査
25日	晴	68	90	20.0	32.2	小麦刈
24日	曇	54	74	12.2	23.3	検査
23日	曇	54	86	12.2	30.0	豌豆引
22日	曇	56	82	13.3	27.8	大麦打
21日	晴	56	84	13.3	28.9	

明治40年(1907年)9月の日記



(9月)日	天気	最低温度(華氏F)	最高温度(華氏F)	最低温度(摂氏C)	最高温度(摂氏C)	記
10日	曇	64	70	17.8	21.1	
9日	曇	66	76	18.9	24.4	豌豆打
8日	雨	62	70	16.7	21.2	汽車開通式
7日	曇	74	72	23.3	22.2	赤豌豆引
6日	雨	60	74	15.6	23.4	
5日	曇	60	76	15.6	24.4	小麦打
4日	曇	56	76	13.3	24.4	
3日	晴	60	80	15.6	26.7	小麦刈
2日	曇	68	70	20.0	21.1	豌豆打
1日	雨	66	84	18.9	28.9	汽車全通



役場の前の頌徳碑

木田幸次郎略傳

開拓功労者としても、農業協同組合基礎を据えた人としても忘れられない翁の一生はこうであつた。

藍綬褒章を辞退

今から約百年前の安政元年に三重県飯南郡茅原村に赤ちやんが生まれた。幸次郎という名をつけたが、この子はすくすくと成長して、県立農学校を卒業すると、木田幸次郎青年となって農業に志したのである。

木田さんは堅いばかりの変人かと思つたら、なかなかやるのが立派でないか。今度ひとつ区長をやつてもらおうという部落の人々のため、初めに公職に就いたが、貧者の救済と村民の教化のために自ら勤儉力

行の範を示したのである。こうして三年の間に租税完納の美風をつくつて茅原村の財政を確立したのでから、変人と思はれる人どころか重味を加はつて次郎に郷土の指導者として重きをなしてきたのである。

しかしせまい土地に人口の多い伊勢では次々に増加する人口の収容の出来ないことを知つて、明治三十四年官界を去り、県下五郡から募集した伊勢団体をひきいて、四月十九日幾寅に到着したのである。

の反抗と威嚇に動ぜず敢然として決行せり現存する幾多の林野は当時於ける氏の努力の結晶なりという氏区長の職に在りとも此の報酬を受けるなく又貧困にして納税に窮するものゝ為には自ら代納して記するなし現今茅原の地納税成續良好なる所以のもの一に氏の余徳の致所なり氏が四十二歳厄年の際杉苗千本を提呈して植林したるもの後年学校新築の用に供せられ価格二千有餘円を得たりといふ氏説書を好む新進の学術研究を怠らず就中農学に到りては世に定評あり常に後人の誘掖指導に力を注ぎ一時県庁に入りて官界の生活をなせしむるに暫くして辞し去つて北海道開拓事業に身を投じ伊勢団体六十余人の長として今や彼地に余世を送り実には氏の如きは稀に見る高徳の士にして里人の欽慕敬仰措かざるもの尙に故なきに非ず茲に郷党相会し頌徳碑を建設す則ち事蹟の概要を刻して以て千秋に伝ふることを願ひ

一期一会の思いで東京見物をしたが東京の桜も散つていた。東京から青森までは舟に弱いものは汽車にのつて二組に分れたが木田翁も中田きく(後の角谷夫人)も汽車組だった。青森から北海道の室蘭まではもちろん乗船し、それから札幌を汽車で通過して旭川市に來たが、こゝで二三日滞在して食糧や日用品の準備をした。

建設中の鉄道を通つてもしからなかつたので四号線を空知川に降り、渡舟をもちつて川を越すと目的の伊勢団体なのである。幽遠な古から自然がほしいまゝにつくりあげた原始林はさすがに移住者の前にたちふさがつてきた、まずこの大樹をきり倒す技術を知らなかつた。そこで根をとをきるのは馴れた人たちのみ、自分達はこまかくきる仕事をした。

開拓の上に立って農業を主体とした生活の安定がなくては永住の地とすることが出来ない。

伊勢で県立農事試験場をつつた木田翁であったから、その豊富な農学知識を基礎に農業気象の観測を初めたのである。

翁自筆の日記には毎日摂氏と華氏の気温が記入され、しかも十日ごとにその積算温度が記入され月々合計されている。

最近冷害凶作の対策として積算温度が重要視され、農業技術の上に大きく浮んできているが、翁は明治三十八年から大正四年まで毎日記録してあるのである。

もっともこの後も書きつづけたのであるが日記がのこっていないだけである。

これを基礎として作物の選定をした。瓜や茄子の花の咲かないころ霜がきて「とうきび」は生食がやつの時代にこれだけの根気をもっていったのである。翁の試作は私設農事試験場であった。

鋤鉞をとらば天地の恩を知らぬのが力であると思ふ。

と二宮尊徳の精神を信条としていた翁の自然随順の心がその行為の中には生きていた。

移住後五年目に成功検査をうけたが、農場や牧場とちがって地主と小作の関わりがなく、このときすべて登録

協同の産む力

木田翁の家——家というより草庵と言った方がよい——は幾寅から基礎を行って更生橋を渡った左側の川ぶちにあった。今も畑の中にくるみの木が残っているところである。

今様良寛とも言うべき翁は三尺さまの屋根に稲きびがらの櫃で厳寒をしのいでいた。

あばら屋に吹雪する夜は明けやらで蒲団の上に雪つもりつゝ、

という翁の短歌はこうして生れ出たのである。

さゝやかな住居——この草庵の近くには苹果(リンゴ)を植えてあった。この栽培にはこの外力をそゝいだので見事に実を結んでいる。

ズモモもグミもグスベリもイチゴもあつた外各種の草花があつて、農園の様であつた。おそろくその頃園芸作物や宿根草花の品種をこの位集めていたところはなかつた。

出来た果実は買に行つても売つてくれない、しかし子供達でもらうに行くところだ。ただでくれるのであるが一日に一人一回限り、しかもちやんと分量をはかつてくれたのである。

原始林をきり、籠篋の根を掘って伊勢団体の開墾を進んだ、適地適作の発見は

組合爺さん

橋本小七、秋山兼之進、佐々木虎吉、佐賀源次郎、原田善八、山上鹿吉、佐藤市五郎、上田浅次郎、佐藤専右衛門、加藤安右衛門、木曾惣治、矢野五蔵、大原清七、中田嘉助、角谷辨次郎、浅野勇次郎、大道某(福三郎の父)斎藤己之松、木田幸次郎、木田幸次郎。

二十名にならないと認可にならない。こうして大正三十一年九月九日幾寅産産業組合は設立登記を完了したが、この日こそ、農民の協同の力が初めて結集された記念の日なのである。

自分には幼少の頃から産産業と云う言葉をよく聞き、今から考へて見るとその当時から心の奥底には組合と云う言葉に興味を潜んでいたのだ。

それは五つか六つの頃であつたと思う。組合からは月に二回宛極く真面目な爺さんが貯金集めに来た。この貯金集めの爺さんの面影は永久に自分の頭から去らないだろう。

それは貯金を集めに来る時には乾度余暇に作り上げた果物を子供へのお土産として持ってきてくれたのだ。

前には林檎であつたが、今度は何を持ってきてくれるかと楽しみにして待つ様になつたのは自分ばかりでない。同じ年頃の友達に其当時の事を話すと

永遠の人

昭和二年十月、木田翁の生前の偉業をつくづくとしのんで、角谷辨次郎が發起人となつて頌徳碑の建立が計画され、四十六名の人々が賛成して浄財を寄附した。この時はまだ充分に機が熟していなかつたので翁の草庵のあとに「木田幸次郎翁頌徳碑」という木碑がたつたのであつた。

しかしこの事業が有終の美をなさないうちに角谷辨次郎も世を去つたので、産産業組合の遺産を相続した南富良野村農業協同組合長土反政太郎及び専務理事新田義男がこの事業を継続し、挙村一致の態勢をとることになつた。村上寿造が木田翁頌徳碑建設發起人代表となつて期成会設立委員を依頼する文書を発送し、行政

と誰も皆「俺もそうだった」と述べて居るから確かだ。どんなものか知らないけれども組合という気持はこの老爺によつて自分の胸に植込まれた。

これは自治産産業友会誌の才十四期一頁(昭和九年七月二十日発行)に出てくる産産業、新田義男氏の感想文の一節である。

老爺とはもちろん木田翁で、この様に翁は毎月二十八日、二十九日、三十日の三日を貯金集金日として家事を省みず組合員の家庭を廻つた。

棺桶と経かたびら

翁はどこかぬけた所がある様に見えるが、これは良寛や芭蕉等の先人の生き方に学んだため、中等教育をうけた知識人だから読書家だつた。

蔵書の中で特に多かったのが本草綱目や植物図鑑の様な大冊を初めとする医学や薬学の書に、歳時記の様な俳書であつた。

ことに皇漢医学に関するものが多く、翁は漢法薬の処方方上手だつたのである。医者のない開拓地に聴診器、体温器、薬研、薬品、

子供のすきな翁は果実がなくなると氷砂糖を持って歩いた。

翁はきつと心の中でこの子供達が大きくなって村のため働いてくれる様にその一つ一つにあつた祈りをこめていたのだらう。この翁の魂はやっぱり生きていた。新田義男氏の感想文は次の様にむすんである。

自分の幼少の頃の貯金集めの老爺の様に、自分もまた今後にくるものにはこの気持をもつて努めて

臨み、組合次世の双肩をたる子供に、貯金集めの老爺が自分に知らず知らず教へてくれた組合という教へて理解せしめ、及ばずながら幸福の幸福、村の幸福、国の幸福をはかり、自分の世に出た意義を最も有意義にしたいと努力しているのである。

新田氏が組合入りした動機は翁の偉大な感化であつたが、現在は村長として村づくりの先頭に立っている村長室のガラス箱には翁自筆による十年の日記と共に現在わずかに二三箇残っているこの時の貯金箱がおさめられている。

木田幸次郎翁頌徳碑

木田翁は安政元年三重県に生れ長するに及び県立農学校を卒業農業に従事し後職を県庁に奉じ此間公共に功多かりし故を以て郷賢碑を建てて之を彰す壮年既に此の事ある偉なりと云うべし明治三十四年四月十九日北門開拓を志し伊勢団体を卒り幾寅に移住す之本村開拓の濠鵬たり当時開拓地は千古藪蒼たる森林冬を迎え

晴れの除幕式場ではるばる伊勢から来道した木田茂生(長男)の顔を見たとき翁の生前を知っている人々「あゝこの人のお父さんだつたと思つた。瓜二つと言ふがこもも似ているものだらうか、一葉の写真ものこさなかつた翁の顔こそこの顔だつたのである。」

除幕式は昭和二十五年九月十七日の祭典が予定されていたが、二十八日に行はれた。

機関の役場と経済機関の農協が一体となつて推進したのである。

篆額揮毫は元北大総長宇士院会員高岡熊雄先生、碑文は富良野町竹内武夫先生であつた。竹内武夫先生は翁に師事した寺西勇次郎に生前のことをきいて定山溪に三泊して想を練り、碑文をまとめ、翁の思想の永遠なることを祈つて魂を澄まし身を清めて筆をとつたのである。

除幕式は昭和二十五年九月十七日の祭典が予定されていたが、二十八日に行はれた。

稗等も用意していて人助けのために投棄し、人々の喜ぶ顔を見るのが何よりうれしかった。

しかしこの評判があまり高くなつたので警察から医師法違反として取調べをうけたが、純情な開拓地農民への奉仕であることが分つたので何のともがめもつけなかつた。

この時翁は聴診器と薬研と体温計と秤は空知川の底ふかく投じてしまつたのである。

こんな調子なので薬草をつつていた、センキウウヤキノサウは現金収入になるだけあつたが、この外に木皮や草根を自由自在に使つたのである。

木田翁には内地の伊勢に母親と夫人と二人の息子を遺してきていたことは前に書いたが、母親のいるうちには毎年一度は母の顔を見に帰つた。母親は

「お前に逢うのはうれしいが、それよりも別れるのがつらい」と言はれるのであつたには帰らなかつた。

母親のいる国へ帰らない心にはもう一つ理由があつた。伊勢団体の責任者として団体の土に骨を埋める覚悟はもちろんだが、伊勢団体が渡道するときその資金として津の銀行から二万五千円を借りたが、その返済が出来なかつた責任を一日も忘れていなかつたのである。

記をうけて各自の所有地になつた。

木田翁の家——家というより草庵と言った方がよい——は幾寅から基礎を行って更生橋を渡った左側の川ぶちにあった。今も畑の中にくるみの木が残っているところである。

今様良寛とも言うべき翁は三尺さまの屋根に稲きびがらの櫃で厳寒をしのいでいた。

造化にしがつて

木田幸次郎翁の日記は明治三十八年から大正四年までの十一年分完全に残つてゐる。だからと長く書いても二行のものであるが、これを見てみると翁の生活が

自然にしたがつて四時を友とする俳諧の風雅そのもので、果樹をつくり、花を咲かせ、作物を育て、行く雲をよ、とぶ鳥にも深い愛情をよ、いであつたことが分るのである。

寺西勇次郎が俳句に親しみ、歌を詠み、茶の湯の心法に徹し、生花をたしなんだと言つてゐるが、その有様が一字一語に出ている。歳時記を見ているのと同じである。筆者はこの十年の日記によつて翁の偉大な精神生活を長編にまとめたいと思つてゐる。

君が代を歌う里とはなりけり十年昔の熊笹の原

という歌は幾寅小学校の十周年記念式にのぞんで祝辞をのべたとき黒板に書いたものであつた。

皇室を尊んだ翁は日記にも必ず祝祭日を書き皇室の動きは東京のことでものせてあるのである。

三人して案山子まねばやみの空

の句は辞世のつもりでつくつたものであるという。

大正十四年の正月もすんで二月になつた。北海道の奥地の幾寅では最も寒波のきびしい頃で、空知川も氷にざざい翁の草庵をめぐる木々も樹氷を輝かせる頃翁は風邪をひいて寝ていた。翁の夫人の兄の娘の嫁いでいる角谷辨次郎の家があつた。医者と呼んでみて

もらうと余りよくない病状なのである。

通つて看病するのも不都合なので角谷辨次郎宅に連れてきて角谷夫人「きく」さんの手でねんごろな看病をうけているうちに、やゝ回復したので翁にはないしよで伊勢の長男茂生に電報をうたつた。

息子の顔を見てさすがに喜び半月位の間元氣であつたが、息子の伊勢に帰つたあと何病ともない老病によつて、大正十四年四月二十八日七十二才で世を終つたのである。法名は清光院乗著居士であつた。

永遠の人

昭和二年十月、木田翁の生前の偉業をつくづくとしのんで、角谷辨次郎が發起人となつて頌徳碑の建立が計画され、四十六名の人々が賛成して浄財を寄附した。この時はまだ充分に機が熟していなかつたので翁の草庵のあとに「木田幸次郎翁頌徳碑」という木碑がたつたのであつた。

しかしこの事業が有終の美をなさないうちに角谷辨次郎も世を去つたので、産産業組合の遺産を相続した南富良野村農業協同組合長土反政太郎及び専務理事新田義男がこの事業を継続し、挙村一致の態勢をとることになつた。村上寿造が木田翁頌徳碑建設發起人代表となつて期成会設立委員を依頼する文書を発送し、行政

と誰も皆「俺もそうだった」と述べて居るから確かだ。どんなものか知らないけれども組合という気持はこの老爺によつて自分の胸に植込まれた。

これは自治産産業友会誌の才十四期一頁(昭和九年七月二十日発行)に出てくる産産業、新田義男氏の感想文の一節である。

老爺とはもちろん木田翁で、この様に翁は毎月二十八日、二十九日、三十日の三日を貯金集金日として家事を省みず組合員の家庭を廻つた。

臨み、組合次世の双肩をたる子供に、貯金集めの老爺が自分に知らず知らず教へてくれた組合という教へて理解せしめ、及ばずながら幸福の幸福、村の幸福、国の幸福をはかり、自分の世に出た意義を最も有意義にしたいと努力しているのである。

新田氏が組合入りした動機は翁の偉大な感化であつたが、現在は村長として村づくりの先頭に立っている村長室のガラス箱には翁自筆による十年の日記と共に現在わずかに二三箇残っているこの時の貯金箱がおさめられている。

令和2年第1回富良野広域連合議会定例会報告

令和2年第1回富良野広域連合議会定例会が2月14日に開催され、連合長から行政執行方針が述べられたほか、補正予算案及び新年度予算案、条例案5件が原案のとおり可決されました。

また、総務産業委員会及び文教環境委員会から閉会中の継続調査として、「所管施設の運営管理について」の事務調査を決定し閉会しました。

【令和元年度一般会計補正予算】・歳入歳出それぞれ28,100千円を減額

《歳入》・市町村負担金	23,374千円減	
・使用料及び手数料（農林業使用料ほか）	1,540千円減	
・財産収入（乾草売払収入）	372千円増	
・諸収入（雑入）	1,258千円減	
・連合債（消防水利施設整備事業債ほか）	2,300千円減	
《歳出》・議会費（議会費）	616千円減	※報酬、委託料などの減
・総務費（総務管理費）	4千円減	※一般事務費などの増減、職員手当等の増
・衛生費（清掃費）	2,570千円減	※電気料などの減
・農林業費（農業費）	3,748千円減	※臨時作業員賃金、消耗器材などの減
・消防費（消防本部費）	400千円増	※職員の給料、各種手当の増
（常備消防費）	17,222千円減	※職員の給料、各種負担金などの減
（非常備消防費）	2,072千円減	※団員の費用弁償、旅費などの減
（消防施設費）	1,259千円減	※工事費・車両購入費執行残などの減
・教育費（保健体育費）	1,009千円減	※職員の給料、賃金、各種手当などの減 修繕料などの増

【令和2年度一般会計予算】

歳入歳出総額を2,315,298千円とする（前年度比31,880千円増）

内訳は下表のとおり

令和2年度富良野広域連合一般会計予算概要（単位：千円）

歳入区分	歳入金額	前年度比	歳出区分	歳出金額	前年度比
分担金及び負担金	1,982,919	41,946	議会費	3,349	206
使用料及び手数料	36,656	490	総務費	53,078	△2,440
財産収入	2,955	△255	衛生費	263,781	12,722
寄附金	1	0	農林業費	69,709	△2,682
繰越金	1	0	消防費	1,358,507	21,822
諸収入	214,414	△9,446	教育費	458,823	13,956
連合債	57,300	△7,100	公債費	105,051	△1,978
国庫支出金	21,052	6,245	予備費	3,000	0
			災害復旧費	—	△9,726
歳入合計	2,315,298	31,880	歳出合計	2,315,298	31,880

※「前年度比」は令和元年度当初予算額との比較

○条例の制定及び改正

- ・公の施設に係る指定管理者の指定手続に関する条例の制定
- ・会計年度任用職員の給与及び報酬等に関する条例の制定
- ・地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定
- ・公共申内牧場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- ・消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例

※その他会議に付した案件

- 監査委員報告 例月出納検査結果報告（令和元年度9月分～12月分）
- 令和元年度定期監査報告

地域食堂の開催（2月18日）

社会福祉協議会は認知症サポーターの会の協力のもと、65歳以上で外出機会等が減っている高齢者の方々に声を掛け、保健福祉センター「みなくる」で地域食堂を開催しました。

今回の地域食堂は、昔の写真や地図などを見て交流を行いました。参加された皆さんは、昔の話を懐かしそうに話したり聞いたり、とても生き活きとした表情で楽しい時間となりました。また、昼には幾寅婦人会の踊りを見たり、会話をしながらの井ぶりメニューの食事を楽しんでいました。

地域食堂は、今年度4回開催され、高齢者の居場所作りや引きこもり対策などを目的に実施してきています。



医療介護連携推進事業「よるカフェ」（2月26日）

町地域包括支援センターは、医療と介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らすため、継続的に在宅医療・介護を提供することを目的に、町内の医療・介護関係者を対象に講習会「よるカフェ」を開催しました。

講習会では、さいほう薬局の岩浪佳晃さんを講師に招き、訪問薬剤師として薬の重複した服薬、飲み忘れなどの薬を減らしていく支援や管理方法などの話を聞きました。参加者は皆メモを取ったりと真剣に話を聞いており、医療関係者も介護関係者も互いの共通認識を深めていました。



陸上自衛隊上富良野駐屯地第4特科群 群冬季戦術競技会開催（2月21日）

陸上自衛隊上富良野駐屯地第4特科群は、1月10日から3月6日まで1日約50人、延人数で2,685人が南ふらのスキー場で、冬山の機動訓練を実施してきました。

訓練後半の2月21日（金）には、320名もの自衛官が参加し群冬季戦術競技会が実施され、参加した自衛官は、日頃の訓練の成果を遺憾無く発揮していました。

昼には、富良野地方自衛隊協力会南富良野支部女性部のお手伝いにより、ロッジで温かい豚汁が振る舞われていました。



新入学児童・園児へ（3月10日）

町商工会女性部が教育委員会を訪れ、新入学児童や園児が、楽しく学校や保育所で学べるように薬用ハンドソープが贈呈されました。

商工会女性部 岩井 涼子会長は「今、新型コロナウイルス感染症の問題で、各小学校が休校になっていますが、早く落ち着いて新入学児童や園児が楽しく元気よく学校や保育所に通えるようになってほしい」と話されました。



教育委員会通信

令和2年度 自然体験年間計画



テーマ:南ぶの自然を感じよう!



内 容	場 所
① 5月10日(日) 川でイトウの産卵を観察しながら春の息吹を感じる。	北落合
② 5月17日(日) 川でイトウの産卵を観察しながら春の息吹を感じる。	北落合
③ 7月31日(金) 魚釣り・たき火・バーベキュー(釣った魚を焼いて食べる)。	落 合
④ 8月22日(土) 魚釣り・たき火・バーベキュー(釣った魚を焼いて食べる)。	落 合
⑤ 9月6日(日) 夏の湧水を飲みに行こう!	北落合
⑥ 10月18日(日) 木登り・秋の収穫パーティー(ジャム作りなど)。	幾寅内藤の沢
⑦ 12月19日(土) 冬の森散策・動物の痕跡を探そう!	幾寅内藤の沢
⑧ 1月13日(水) 冬の森でソリ滑り・かまくら作り。	幾寅内藤の沢
⑨ 2月13日(土) 冬の湧水を飲みに行こう!	北落合
⑩ 3月13日(土) 冬の森でモモンガ探し。	幾寅内藤の沢



お誘いあわせの上ご参加ください。※各回の募集案内は別途いたします。

令和2年度 住民自主企画活動支援事業

住民の皆さんが主体となって活動する事業を支援します!

- ◆補助金の額
1事業につき30,000円まで
- ◆補助対象事業
①町民を対象とした学習活動に関する講演会、ワークショップ、学習会
②その他上記に類する事業
- ◆補助対象の内容
①講師謝礼金 ②町外講師の交通費 ③町外講師の宿泊費
④事業に必要な消耗品(材料費等) ⑤使用料(会場、機材等)
- ◆補助対象者
①町内に居住する個人または団体であること。
②補助を受けなければ、事業の実施が困難であること。
- ◆申請について
・申請書に事業予算書・事業概要を添付して教育委員会生涯学習係へ提出して下さい。
・補助金の申請は年1回とします。
・申請用紙は町ホームページよりダウンロードするか、町教育委員会に用意しております。

南富高新聞

第36号
発行
南富良野高等学校



大学進学・学力向上に関わる
平成31・令和元年度の取組状況
昨年度に続き、教育振興会から進学模擬試験料の一部補助(平成30年度より助成開始)を受けて、1学年から3学年まで、延べ49名の生徒が各種模擬試験に果敢に挑戦しました(平成29年度24名・平成30年度58名)。これにより、令和2年3月1日に卒業した3学年17名のうち大学進学希望者1名(カヌー部所属)が国立鹿屋体育大学体育学部スポーツ学科へ一般選抜受験にて進学を果たしました。

新2学年・新3学年(34名)には、合わせて現在9名の4年制大学・短期大学進学希望者が在籍しており、先輩に続いて、日常の授業を中心にして、放課後講習や進学模擬試験に取り組んでおります。また、本年度から、大学進学希望者向けの国語・数学・英語において、教育振興会から助成により整備したタブレット等を用いた学習を試みておりますが、令和2年度入学生からは5教科における基礎学力向上のためにも活用予定です。同じく本年度から、各学年の基礎学力診断テスト(国・数・英)を年間複数回にわたって実施し、学習到達ゾーン(GTZ)と呼ばれる全国指標において、学力レベルの向上が認められています。

シリーズ学校だより(207)

各学校の取り組みを紹介します。

▶▶南富良野西小学校▶▶▶



あべ弘士さんの講演会
1月28日(火)に北海道の「子ども心に響く道徳教育推進事業」として、絵本作家のあべ弘士さんが来校され、講演会を開催しました。この日はいつもの道徳の授業とは違い、あべさんが世界をめぐる見聞されたことや多くの動物たちとのふれあいから得られた経験をたくさん聞かせてもらい、考えを深めていく授業でした。
特に、子どもたちの心に響いたのは、人類最速のボルト選手と自然界で暮らす野生動物の足の速さ比べについての話と、ヒクマの冬眠時の不思議な生態の話でした。あべ先生の軽快で愉快な話には、子どもたちは時には驚き、そして時には大笑い、と、どんどんあべ先生の世界に引き込まれ、雄大な自然を感じていました。



また、絵本作家ならではのウサギやサル、ソウの特徴をとらえた描き方を実際に描きながら教えてもらいました。そして、最後に北極圏を旅して出会った白クマの親子を題材にした絵本がどのように出来上がったのか、写真やメモをもとに教えてもらいました。
最後まで、興味深い話ばかりで貴重な体験をもとにした楽しい話をいっぱい聞かせていただきました。
今回の講演会を通して、子どもたちは自然の不思議さにふれるとともに素晴らしい感動することができました。また、自然を大切にしたいという思いをより強く育むよい機会となりました。

子育て支援センター「ぷっこ」だより

～☆☆明るく元気な子にそだちますように☆☆～

☎52-2315
☎090-5985-4339

子育て支援センター

寒さも和らぎ、優しい風に吹かれて春がやってきました。先月は新型コロナウイルス感染拡大等の影響で一部活動を中止するなど、色々ご不便・ご迷惑をおかけいたしました。

子育て支援センターでは、今年度も親子で楽しく通っていただけるよう、遊びやイベントを企画していきたいと思っています。一年間どうぞよろしく願いいたします。

☆0歳ぷっこ「お雛様製作」☆



手作りのかわいいお雛様を作りました♡はい、ポーズ！

☆茶話会「ヨガ」☆



日頃の運動不足解消に、ヨガで心も身体もリフレッシュできました。

☆親子体操教室「フロアホッケー」☆



親子で初めてのフロアホッケーを行い、時間いっぱい親子で気持ちの良い汗をかき楽しみました♪

☆育児講演会「子育てに役立つハーブ」☆



赤ちゃんやお母さんにも使える軟こう作りなど部屋中ハーブの良い匂いに包まれ癒しの時間となりました。

保育所の元気な子どもたち

幾寅保育所

3月3日、幾寅保育所お遊戯室でひなまつり会を行いました。「うれしいひなまつり」をみんなでうたったあとは、桃の節句のクイズをしたりおひなさまのパズルをしたり楽しい時間をすごしました。



金山保育所

2月3日、豆まき会を行いました。鬼の登場で泣いて動けなくなる子もいましたが、勇気を出して「鬼は外、福は内！」。見事に鬼退治ができました。鬼さん、いい子でいるから来年は来ないでね…



しょうぼう広報 ほのお

富良野消防署南富良野支署
☎52-2119 FAX52-2979
✉fs-nanpu@vesta.ocn.ne.jp
災害案内 ☎52-3119

春の火災予防運動が始まります！

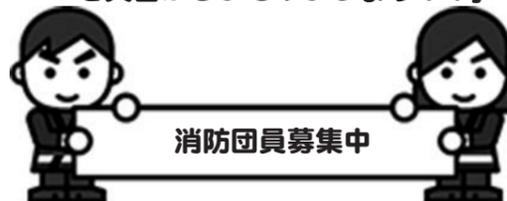
令和2年4月20日（月）から30日（木）までの期間、春の火災予防運動が行われます。空気が乾燥し、火災が発生するおそれのある時期です。火気の取り扱いには十分注意をしましょう。

☆春の火災予防運動期間における消防行事☆

- ①防火パレード**
火災予防運動初日に行います。火災が起きないように町内各地を広報します。
- ②施設内立入検査**
火災予防、火災から身を守るため、町内事業所や公共施設を検査します。皆様の業務中に検査を行うこともあります。ご理解ご協力よろしくをお願いします。
- ③模擬火災訓練**
町内で火災が発生したことを想定し消火活動や救助活動を行います。訓練日はサイレンを鳴らしますので実際の火災とお間違いのないようご注意ください。訓練日およびサイレンが鳴る時間につきましては、事前に回覧板にてお知らせいたします。
- ④消防水利総点検**
町内の消火栓、防火水槽の状態を細かく確認します。実際に放水したり、壊れている箇所の確認や修理をいたします。

南富良野支署からのお知らせです。

【生まれ育った町、働いている町
を災害からまもりましょう！！】



消防団員募集中

入団資格を満たしていれば、どなたでも入団することが出来ます！興味のある方は、富良野消防署南富良野支署消防係（TEL 52-2119）までお問い合わせください。

※入団資格

- ・町内に居住または勤務している方
- ・年齢18歳以上の方
- ・心身共に健康な方



住宅用火災警報器の
確認・交換をしましょう！



新築住宅では平成16年6月1日から、既存住宅では平成23年6月1日から、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。電池の寿命は約10年とされていますので作動確認を行い、電池交換をしましょう！本体ごと交換することをお勧めします。

全国統一防火標語

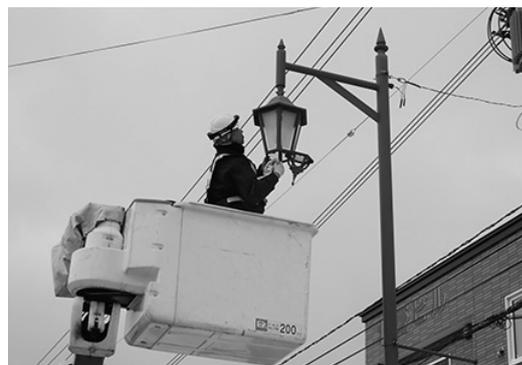
「ひとつずつ いいね！で確認 火の用心」

南富良野支署出動件数（令和2年2月1日～2月29日）

- 救急出動 19件（内ドクターヘリ要請件数 2件）
- 火災出動 1件（内他市町村応援出動 1件）
- 救助出動 0件

地域貢献活動

3月6日（金）に、旭川建設管理部発注の「旭川建設管理部河川総合流域防災工事」外4工区を施工している旭川市の東邦電設株式会社（代表取締役：小野沢 千秋）による地域貢献活動として、幾寅市街地の街路灯清掃作業を実施していただきました。



※町ではこのたびの地域貢献活動に対し感謝状を贈呈しました。

寄附・寄贈

次の方々から寄附・寄贈がありました。皆さんのご厚志に対し紙上をもって厚くお礼申し上げます。

社会福祉協議会へ

○幾寅 定塚定雄様より社会福祉協議会の運営に活用する寄附として 十万円

一味園・からまつ園・こやうら園ふくしあへ

○幾寅 上原 繁雄 様

○幾寅 小野 敦子 様

○下金山 澁谷 久恵 様

○富良野市 浦田 吉 様

○富良野市 酒井 一美 様

○富良野市 白澤 英二 様

○富良野市 千葉 傳 様

○富良野市 松本 三郎 様

○赤平市 金山 みどり 様

○札幌市 ノビロ学園 様

○小樽市 前北 啓子 様

☆お誕生おめでとう

下金山 細川 風雅ふうが

令和2年2月20日生まれ

★お悔やみ申し上げます

落合 鈴木 政勝(88)

令和2年2月12日逝去

金山 山上 笑美子(88)

令和2年2月16日逝去

◎わたしたちのまち

(令和2年2月末日現在)

人口 2,431人(△1)

男 1,231人(1)

女 1,200人(△2)

世帯数 1,342戸(1)

()内は前月比